

## 活動状況報告書（11月分）

文化芸術コース 荒川 真央

11月はM.レーガーの人となりや作風を多角的な視点から学び、彼がどのような環境で生き、作曲活動を行っていたのかを体感出来た月でした。

中でもドイツ・アーレンに在る聖ニコラウス教会で、数回にわたりレーガー作曲のオルガン作品を聴くことができたことは大きな収穫です。

聖ニコラウス教会では毎週土曜日朝10時から始まる『ORGELMUSIK ZUR MARKTZEIT』…文字通りMARKTZEIT(市場の時間)に30分程度のORGELMUSIK(オルガン音楽)を無料で聴くことができます。実際、教会の近くは朝市で賑わっており、教会には買い物途中の市民の姿が多く見受けられました。会場が教会のため“祈りの言葉”を唱える時間がありますが誰もが入館可能で、特に11月は毎週レーガーの作品が演奏され、レーガー自身が教会のオルガニストとして働き、オルガンのための作品を多く残していること、またその他の作品にもオルガンの響きの要素を感じることを考えると、ドイツという彼が生まれ育った地でオルガンの響き・空気を体感しながらその作品を耳にできたことはレーガーの作品を演奏していく上でとても重要な要素となっていくと確信しています。

また、現在、カールスルーエに在るバーデン州立図書館にはレーガーに関する特別展示会場が設営されており、現存するレーガーの直筆譜や写真等の資料の1/3が展示され、実際にそれらを目にすると“実在した人物”としてはっきりと認知でき、不思議な高揚感と大きな感動を覚えました。

11月はシュトゥットガルトを離れ演奏会や展示会に赴き、その他、レーガーについて議論する機会が何度かありましたが、実際日本でもドイツでもレーガーの作品を学び演奏することは容易くはないものの、今年が生誕150年の記念の年であるにしてもドイツでは明らかに演奏される機会が多く、マックス・レーガーという名前が日本よりもはるかに周知されていることを再認識、同時に学ぶためのチャンスが山ほどあることを再確認できました。

12月は引き続きピアノソロとクラリネット作品の研究を進め、1月に行われるVortragsabend(門下発表会)の準備、それから新たに声楽のレッスンでピアノを弾く機会を頂き、オペラやドイツ語・歌詞についても学ぶ良い機会となります。ドイツに来て三カ月、既にいろんな出会いがありましたが、この国の人々・多くの先生方が大切にしている「Was machen Sie?(あなたは何かをしたいのか)」を常にはっきりさせ、この環境にまだ身を置くことができることに感謝を。レーガーが様々な作曲家を尊敬し、意見を仰ぎ生きたように、私も何にでも挑戦し自分らしく感性を磨いていきたいと思えます。



①St. Nikolaus, Aalen



②St. Nikolaus, Aalen



③St. Nikolaus, Aalen



④St. Nikolaus, Aalen



⑤バーデン州立図書館・展示



⑥バーデン州立図書館・展示会場



⑦ドイツの冬



⑧練習室・壊れたピアノと簡易椅子